

事業の背景・目的

一時個体数が激減したタンチョウは、地域における保護の取組や、国や北海道の施策等により、**2023年度**には野生個体**1,329羽**が確認されるまでに個体数は回復した。しかし近年では、特に越冬期において釧路地方に集中する傾向が顕著となり、**2016年度**より給餌量調整等の生息地分散の促進に向けた取組がはじまった。国内最大の越冬地であり**70年以上**にわたり保護活動に取り組んできた鶴居村では、タンチョウをとりまく現状を踏まえた取組内容の変換が求められている。本事業では、鶴居村におけるタンチョウと地域との共生に向けた実施体制を確立し、具体的な取組を推進することで国の事業推進への寄与を目指すものである。

事業の内容

事業① 生息状況把握事業及び適正な越冬個体数検討事業 R4年度から継続

- ・環境省委託給餌場のタンチョウの飛来状況の把握
- ・環境省委託給餌場を利用しない個体の生息状況の把握
- ・ねぐら利用状況の把握

→これらのデータを元に鶴居村の適正な越冬個体数の設定に向けた考え方を整理し、適正な給餌手法を検討した。
→自然採食地の環境整備に着手（実施団体に補助金）

事業② 普及啓発事業

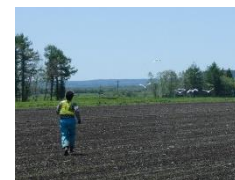
- ・住民参加型のマナー啓発事業の実施
- ・観察ルールの作成
- ・マナー啓発用のパンフ作成



来訪者へのマナー
啓発研修

事業③ タンチョウと農業との共生事業

- ・タンチョウの農場敷地内や飼料用トウモロコシ（デントコーン）畑播種時期の侵入防止対策の実施



デントコーン畑からの
追い払い



デントコーン畑への侵
入防止用器具の設置



デントコーン保管場所
への接近防止対策
（シートに絵を描く）

得られた成果

適正な給餌手法の確立に向けた試行を実施し、その効果を検証した。過年度からの結果も踏まえ、適正な給餌手法の大まかな方針は固まりつつある。また、冬の自然採食地の整備は資金補助をすることでNGO団体が着手した。普及啓発においては、住民参加型のマナー啓発活動を継続し、新たに4名の住民がメンバーに加わった。また、鶴居村独自の観察ルールを策定し、ガイドブックに掲載するとともに、特に冬の観察ルールを整理し、ポスター掲示や村HPでの発信等、普及に努めた。タンチョウと農業との共生に向けた取り組みは、地域住民有志による飼料用トウモロコシ（デントコーン）畑や農場敷地内での追い払いや侵入防止対策を実施した。子どもたちのイベントとしてタンチョウにつつかれやすいデントコーン保管場所のシートに絵を描く接近防止策も実施した。



左上：来訪者対応の
様子
左下：観察小屋に設
置したタンチョウに
関する展示
右：冬のタンチョウ
観察ルール